

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業

審 査 講 評

平成21年10月15日

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業（以下「本事業」という。）における民間事業者の選定を公平かつ適正に実施するため、ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）が設置されました。

平成20年9月に第1回選定委員会を開催し、約1年間にわたって実施方針や要求水準書などの入札説明書等について審議を重ねるとともに、3者の応募企業（グループ）（以下「応募企業」という。）の事業提案内容について厳正かつ公正な審査を行い、落札者を決定しました。

本審査講評は、選定委員会におけるこれまでの審議や審査の過程と審査の結果について公表するものです。

平成21年10月15日

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会

委員長	山本 和夫
副委員長	寺嶋 均
委員	野本 修
委員	松井 邦雄
委員	山口 直也
委員	藤川 雅志
委員	長岡 博之
委員	高畑 智一

－ 目 次 －

1. 事業の概要	1
2. 審査の方法	4
3. 選定委員会の開催及び審議・審査の経緯	9
4. 審査結果	10
5. 総評	18

1. 事業の概要

1) 事業概要

本事業は公設民営（DBO方式）により実施します。

事業者として選定された企業又は企業グループ（以下「民間事業者」という。）は単独又は特別共同企業体を設立し、ごみ処理施設（以下「本施設」という。）の設計・建設にかかる業務（以下「設計・建設業務」という。）を行います。

さらに、民間事業者は、特別目的会社を設立し、20年間の運営期間にわたって、本施設の運営に係る業務（以下「運営業務」という。）を行うものとします。

なお、民間事業者は、約30年間のプラント使用を前提として設計・建設業務及び運営業務を行うこととします。

(1) 事業名

ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業

(2) 事業場所

東京都調布市深大寺東町7丁目50番地30 外

(3) 施設概要

可燃ごみ等の処理対象物を受け入れ、焼却処理を行い、処理の過程で発生する熱エネルギーの有効活用を図る施設

(4) 年間処理計画量

約77,300 t/年

(5) 施設規模

288 t/日（2系列、24時間連続稼働とすること）

(6) 処理方式

ストーカ方式

(7) 事業期間

建設期間：契約締結日の翌日（平成22年3月予定）から平成25年3月末までの約3年間

運営期間：平成25年4月から平成45年3月末までの20年間

2) 事業範囲

(1) 事前業務等

民間事業者は、基本契約締結後速やかに、特別目的会社を設立します。また、本事業を行うために必要な許認可の取得を行います。

(2) 設計・建設業務

- ① 建設請負事業者は、組合と締結する建設請負契約に基づき、本施設の設計・建設業務を行います。
- ② 建設については、プラント工事、建築工事、建築設備工事、土木工事、外構工事及びその他本事業の実施に必要な工事を行います。
- ③ 本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分、その他の関連業務、手続関連業務、本施設の試運転及び引渡性能試験を行います。

(3) 運營業務

- ① 運営事業者は、組合と締結する運營業務委託契約に基づき、本施設の運營業務として受入・供給設備の運営・管理、燃焼設備・燃焼ガス冷却設備・排ガス処理設備・余熱利用設備（熱回収設備）・通風設備・灰出し設備・残渣物等処理設備・搬出設備・排水処理設備の運営・管理、エネルギー利用、用役管理、副生成物の貯留及び運搬、維持管理業務（機能維持のための点検整備・補修・設備更新を含む。）、清掃、保安警備、環境管理、情報管理業務等を行います。
- ② 運営事業者は、焼却炉の炉底より排出される灰（以下「焼却灰」という。）及び集じん装置、ボイラ及びその他排ガス処理工程で捕集された灰（以下「飛灰」という。）についてはエコセメントとして資源化するため、組合が指定するエコセメント化施設に搬入を行います。なお、エコセメント化処理費用は組合が負担します。
- ③ 焼却灰及び飛灰の搬入先であるエコセメント化施設が故障等により稼働停止になった場合は、飛灰処理装置（薬剤処理）にて処理した後、二ツ塚処分場に持ち込むものとします。なお、埋立処分に係る費用は組合が負担します。
- ④ 運営事業者は、可燃ごみの処理に伴って発生する熱エネルギーを利用して発電等を行い、本施設の所内での利用等を行うことができます。なお、余剰電力は隣接する不燃物処理資源化施設及び近隣の公共施設に供給し、更に余剰分が発生した場合は、電力会社等に売電することができます。なお、隣接する不燃物処理資源化施設及び近隣の公共施設に供給した電気については、組合が売電単価相当でそれぞれに売却するものとし、電力会社等への売電分と合わせ、その売電収入及びRPS証書の販売に関わる収入は、組合と運営事業者において合理的な方法により分配することとします。
- ⑤ 組合ではタービン排気蒸気を利用して場外熱供給を将来計画しているため、場外

熱供給を開始した場合には、運営事業者は、場外へ最大5GJ/h相当の熱量を供給するものとします。

- ⑥ 運営事業者は、施設見学者について、組合と連携して適切な対応を行うものとします。

(4) 業務終了時の引継業務

組合は、事業期間終了後も本施設を継続して利用する予定です。したがって、本施設の解体除去は本事業の範囲には含まれません。

組合は、事業期間終了前に、事業期間終了後の本施設の運営方法について検討し、建設請負事業者及び運営事業者は、組合の検討に際して以下の事項に関して協力するとともに、事業期間終了後の組合又は組合が指定する第三者による業務の引継ぎを可能とするため、運営事業者は事業期間中に以下の業務等を行います。

- ① 所有する図面・資料の開示
- ② 新たな運営事業者による本施設及び運転状況の視察
- ③ 運営業務全般に係る指導（組合又は組合が指定する第三者への教育訓練も含む）
- ④ 運営期間中の財務諸表ならびに以下の項目に関する費用明細等を提出
 - ・人件費
 - ・運転経費
 - ・維持管理費
 - ・調達費
 - ・その他

3) 事業スケジュール（予定）

本事業に関する今後の主要なスケジュールは、以下のとおりです。

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 契約詳細の詰め（基本契約の締結も含む） | 平成21年10月以降 |
| (2) 建設請負契約の仮契約締結 | 平成22年 1月 |
| (3) 建設請負契約の議会議決 | 平成22年 2月 |
| (4) 建設請負契約の締結 | 平成22年 3月 |
| (5) 運営業務委託契約の締結 | 平成22年 3月 |
| (6) 施設の引渡 | 平成25年 3月末 |
| (7) 施設の使用開始 | 平成25年 4月 |
| (8) 契約終了 | 平成45年 3月末 |

2. 審査の方法

1) 審査体制

民間事業者の選定を公平かつ適正に実施するため、「ふじみ衛生組合新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会」を設置しました。

選定委員会を構成する委員は、次のとおりです。

委員長	山本 和夫（東京大学環境安全研究センター 教授）
副委員長	寺嶋 均（社団法人 全国都市清掃会議 技術顧問）
委員	野本 修（西村あさひ法律事務所 弁護士）
委員	松井 邦雄（元東京二十三区清掃一部事務組合施設建設部建設課長）
委員	山口 直也（新潟大学経済学部 准教授）
委員	藤川 雅志（三鷹市 生活環境部長）
委員	長岡 博之（調布市 環境部長）※
委員	高畑 智一（ふじみ衛生組合 事務長）

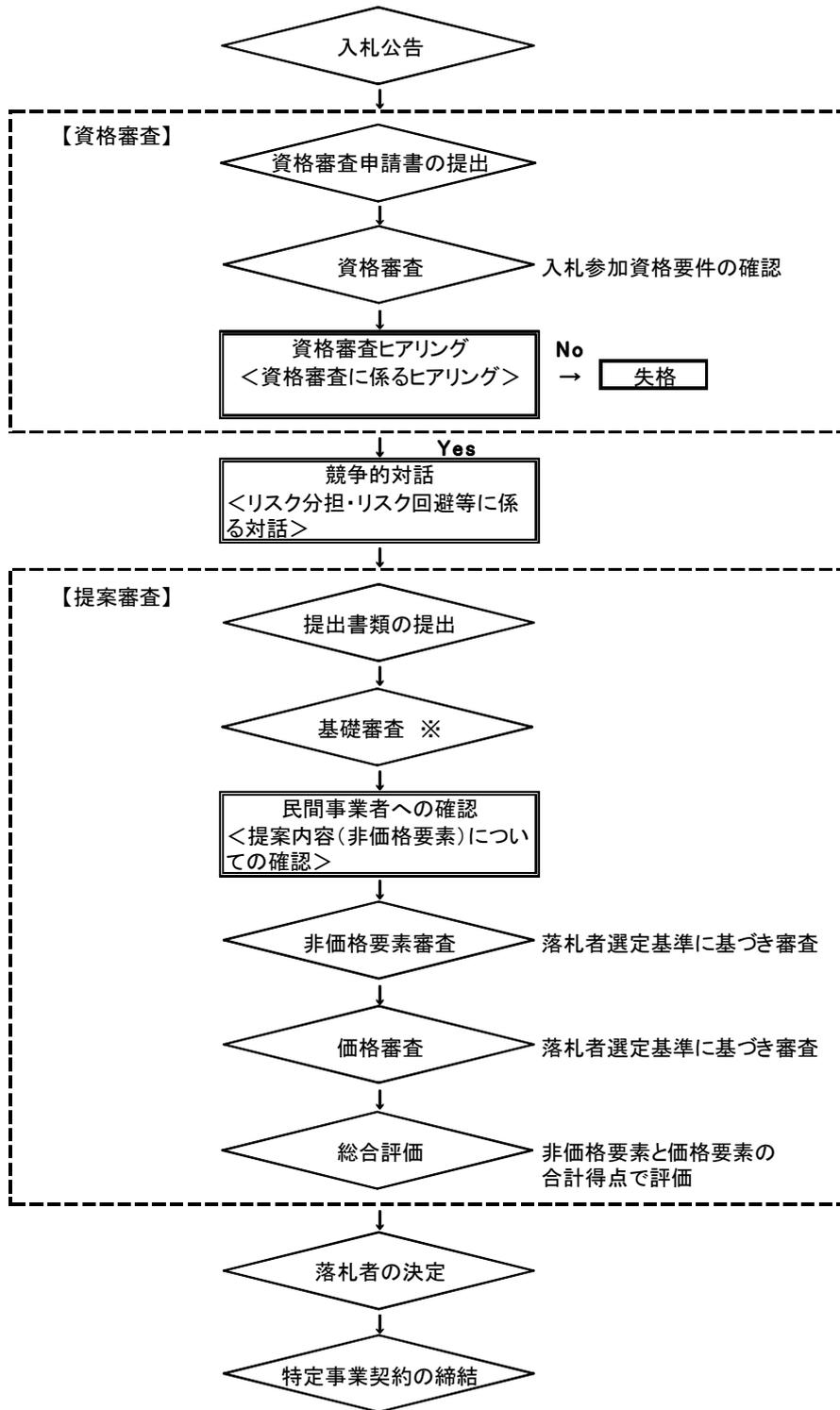
※H21.3.31迄は井上 稔（調布市 前環境部長）が委員

2) 審査及び契約締結までの流れ

事業者選定の方法は、公平性・透明性を確保するために総合評価一般競争入札としました。

総合評価一般競争入札による契約締結までの流れは、図1に示します。

なお、より一層の公平性・透明性を高めるため、選定委員会に対して、各入札書類（技術提案書、非価格要素提案書、事業計画書）の提出者が知らされない状況で審査を行いました。



※ 基礎審査: 要求水準書に示されている基本内容の確認 等

図1 契約締結までの流れ

3) 資格審査

資格審査では、応募者からの参加資格確認申請書等に基づいて、参加資格の確認を行います。

加えて提案内容の基本的な考え方を確認するため、提案概要書に関する審査とヒアリングを実施します。

4) 競争的対話

競争的対話では、確実に発注者の意図（施設の整備に関する事項及び運営に関する事項）が応募企業に伝わり、その意図が提案書に反映されるように、「提案仕様のレベル合わせ」、「事業のリスク構造の明確化」といった観点から、発注者と応募企業が対話を行います。

5) 提案書審査

提案書の審査方法は、以下のとおりです。

(1) 基礎審査

基礎審査では、要求水準書等に規定された性能要件を満足できるか否かの審査を行います。

(2) 非価格要素審査

(1)の基礎審査を通過した入札参加者を対象に、非価格要素について審査し、非価格要素審査点を決定します。

なお、非価格要素審査に当たっては、提案内容に関する理解を深めるため、選定委員会によるヒアリングを実施します。

非価格要素審査点の配点は500点とし、以下に示す各評価項目の得点の合算を非価格要素審査点とします。評価項目及び配点、採点基準を以下に示します。

① 評価項目と配点

評価項目及び配点を表1に示します。

表1 非価格要素評価項目

評価分類	評価項目	評価の視点	配点	
1. 本事業の実施計画に示す基本方針に対する評価	1) 環境への負荷軽減	公害防止基準等（排ガス・騒音・振動・悪臭等）の保証値及び保証値を実現するための工夫	12.5	
		排ガス量・排水量の削減	12.5	
	2) 地域環境との調和	温室効果ガス抑制へ向けた方策（CO ₂ 排出量）	12.5	
		建築物の緑化対策（屋上緑化・壁面緑化）	12.5	
	4) エネルギーの有効利用計画	周辺景観との調和	12.5	
		緑化計画（緑地面積）	12.5	
	5) 焼却残渣量の削減計画	施設の安全性－リスクマネジメントの考え方	12.5	
		施設の安全性－建設工事中の安全対策	12.5	
	6) 情報公開性	施設の安全性－通常時の安全対策	12.5	
		施設の安全性－非常時（火災時・停電時・地震時など）の安全対策	12.5	
	7) 地域貢献性	労働安全性－作業環境	労働安全性－作業環境	12.5
			労働安全性－作業動線計画・機器配置	12.5
		熱回収率向上へ向けた計画－熱回収量(kJ)	12.5	
		熱回収率向上へ向けた計画－余剰電力(kWh)・発電効率(%)	12.5	
		省資源・省エネルギーへの配慮	12.5	
		自然エネルギー利用計画	12.5	
		エコセメント化施設へ搬入する焼却残渣量の削減計画	12.5	
		見学者への配慮	12.5	
		情報公開	12.5	
		地域経済への貢献、地域との連携	12.5	
2. 施設安定稼働・事業の安定性からの評価	1) 安定性の確保	ごみ量変動への対応	15.0	
		ごみ質変動への対応	15.0	
	2) 事業計画	安定稼働性－連続稼働実績(90日)	10.0	
		安定稼働性－安定稼働実績	15.0	
	3) 維持管理計画	維持管理性（補修時対応の容易性）	15.0	
		プラントの事故対応	15.0	
	4) 運転管理の方法	主要設備の余裕率	10.0	
		SPCの収支計画の安定性	15.0	
	5) 本組合との協調	補修費等（法定点検費、補修費、更新費、消耗品費）の考え方	15.0	
		用役費（電気・燃料・水・薬剤）の考え方	15.0	
	6) その他	人件費（管理・運転・機器整備・計量・プラントホーム監視、その他）の考え方	人件費（管理・運転・機器整備・計量・プラントホーム監視、その他）の考え方	10.0
			応募者の構成と役割分担	10.0
		事業の安定化へ向けた方策	15.0	
		施設を30年間使用するにあたり効率的な維持管理計画・体制の説明	15.0	
		運転計画の適切性－運転計画	10.0	
		運転計画の適切性－労働安全対応	10.0	
		セルフモニタリング計画	10.0	
		業務の引継方法	10.0	
		地域住民への対応	10.0	
		その他	10.0	
			500	

②評価項目の採点基準

各評価項目において、次に示す5段階により評価、点数化します。

評価	評価内容	採点の算出方法
A	非常に優れている	項目ごとの配点×1.00
B	かなり優れている	項目ごとの配点×0.75
C	優れている	項目ごとの配点×0.50
D	やや優れている	項目ごとの配点×0.25
E	要求水準を満たす程度	項目ごとの配点×0.00

(3) 予定価格

ふじみ衛生組合では、予定価格を次のとおり設定しました。

予定価格 28,586,000,000円 (注) 消費税及び地方消費税の額を含まない。

(4) 価格審査

(3)に示す予定価格を超過していない入札価格を落札者決定基準書に定める価格審査点算定式により価格審査点を算定します。

価格審査点の配点は、500点とします。価格審査点については、以下に示す予定価格基準方式で得点を算定します。

【式1】

$$\text{価格審査点 (X)} = (\text{予定価格} - \text{入札価格}) / 1 \text{ 千万円}$$

予定価格の金額で入札した場合(0点)を基準として、1千万円下回る毎に1点を加算する。(式1)

ただし、式1により価格審査点(X)が500点以上を獲得する応募企業がある場合には、下式(式2)により算出するものとする。

【式2】

$$\text{価格審査点} = 500 \times (\text{予定価格} - \text{入札価格}) / (\text{予定価格} - \text{最低入札価格})$$

※最低入札価格：応募者の入札価格のうち最も低い価格

(5) 落札者の決定

(2)で決定した非価格要素審査点と(4)で決定した価格審査点を加えて総合評価点を算定し、最も高い点数の者を「落札者」とします。なお、総合評価点の最も高い点数の者が2者以上あるときは、当該者にくじを引かせて落札者を決定します。

3. 選定委員会の開催及び審議・審査の経緯

年 月 日	内 容
平成20年 9月25日 (木)	第1回 選定委員会 [委員会設置要綱・事業の経緯・事業者選定スケジュール・実施方針案]
平成20年10月24日 (金)	実施方針の公表
平成20年10月24日 (金) ~ 11月 4日 (火)	実施方針に関する意見・質問の受付
平成20年10月28日 (火)	第2回 選定委員会 [競争的対話等の実施方法・特定事業の選定案]
平成20年11月19日 (水)	実施方針に関する意見・質問への回答
平成20年11月28日 (金)	第3回 選定委員会 [実施方針変更版案・特定事業の選定案・要求水準書案]
平成20年12月26日 (金)	実施方針【変更版】の公表 特定事業の選定
平成21年 1月26日 (月)	第4回 選定委員会 [事業者選定基準・募集要項一式(入札説明書案、様式集案、落札者決定基準書案、要求水準書修正案・契約書案)]
平成21年 2月 6日 (金)	要求水準書(案)の公表
平成21年 2月 6日 (金) ~ 2月16日 (月)	要求水準書(案)に関する質問・意見の受付
平成21年 2月16日 (月)	第5回 選定委員会 [事業者選定基準・募集要項一式(入札説明書案、様式集案、落札者決定基準書案、要求水準書案・契約書案)]
平成21年 3月 2日 (月)	要求水準書(案)に関する質問・意見への回答
平成21年 3月26日 (木)	入札公告
平成21年 3月27日 (金)	募集要項の公表
平成21年 3月27日 (金) ~ 4月10日 (金)	募集要項に対する質疑の受付
平成21年 4月22日 (水)	入札説明書に対する質疑への回答
平成21年 3月27日 (金) ~ 5月 8日 (金)	資格審査申請書等の受付
平成21年 5月22日 (金)	資格審査ヒアリング
平成21年 6月12日 (金)	様式集、要求水準書、落札者決定基準書及び契約書案に対する質疑への回答 募集要項(修正版)の公表
平成21年 7月 4日 (土)	第6回 選定委員会 [競争的対話]
平成21年 7月 9日 (木)	様式集、要求水準書及び契約書案に対する再質疑への回答
平成21年 8月 7日 (金)	入札書類の受付
平成21年 9月26日 (土)	第7回 選定委員会 [非価格要素審査ヒアリング・非価格要素審査]
平成21年 9月30日 (水)	第8回 選定委員会 [価格審査・総合評価]
平成21年10月15日 (木)	第9回 選定委員会 [審査講評]

4. 審査結果

1) 資格審査

表2に示す応募企業から入札参加資格確認申請があり、全ての応募企業が入札参加資格要件を満たしていることを確認しました。

資格審査にあたっては、ヒアリングを次のとおり実施しました。

実施日：平成21年5月22日（金）

会場：ふじみ衛生組合 大会議室

実施要領：質疑60分間（1応募企業あたり）

表2 応募者一覧(代表企業の五十音順)

代表企業	構成企業（代表企業を除く）	
カワサキプラントシステムズ 株式会社 東京本社	構成員	—
J F Eエンジニアリング 株式会社 東京支社	構成員	—
株式会社タクマ 東京支社	構成員	株式会社タクマテクノス

※以下、カワサキプラントシステムズ株式会社東京本社をA社、J F Eエンジニアリング株式会社東京支社をB社、株式会社タクマ東京支社をC社とする。

2) 競争的対話

応募企業に対して、以下のとおり競争的対話を実施しました。

実施日：平成21年7月4日（土）

会場：ふじみ衛生組合 大会議室

実施要領：プレゼンテーション30分間（1応募企業あたり）

基本事項に対する内容確認20分間（1応募企業あたり）

重点事項に対する質疑60分間程度（1応募企業あたり）

3) 提案書審査

資格審査を通過した応募企業から入札書類が提出されましたので、以下のとおり審査を実施しました。

(1) 基礎審査

提案内容が要求水準書等に規定された性能要件を満足できるか否かの審査を行いました。

その結果、いずれの応募企業も全ての要件に適合していると確認されました。

(2) 非価格要素審査

非価格要素審査は、評価項目ごとに選定委員が採点する方法により実施しました。

また、非価格要素審査にあたっては、選定委員会によるヒアリングも次のとおり実施しました。

実施日：平成21年9月26日（土）

会場：ふじみ衛生組合 大会議室

実施要領：プレゼンテーション10分間（1応募企業あたり）

質疑20分間程度（1応募企業あたり）

非価格要素審査の結果を表3に示します。

表3 非価格要素審査結果

評価分類	評価項目	評価の視点	配点	入札参加者(代表企業)			
				A社	B社	C社	
1. 本事業の実施計画に示す基本方針に対する評価	1)環境への負荷軽減	公害防止基準等(排ガス・騒音・振動・悪臭等)の保証値及び保証値を実現するための工夫	12.5	7.3	5.7	5.7	
	2)地域環境との調和	排ガス量・排水量の削減	12.5	8.3	4.2	5.2	
	3)安全性の確保	温室効果ガス抑制へ向けた方策(CO ₂ 排出量)	12.5	3.6	5.8	7.1	
	4)エネルギーの有効利用計画	建築物の緑化対策(屋上緑化・壁面緑化)	12.5	4.0	5.4	8.9	
	5)焼却残渣量の削減計画	周辺景観との調和	12.5	4.9	5.4	9.4	
	6)情報公開性	緑化計画(緑地面積)	12.5	3.6	5.4	8.9	
	7)地域貢献性		施設の安全性－リスクマネジメントの考え方	12.5	5.7	5.2	6.3
			施設の安全性－建設工事中の安全対策	12.5	6.8	5.7	7.8
			施設の安全性－通常の安全対策	12.5	4.7	7.3	7.3
			施設の安全性－非常時(火災時・停電時・地震時など)の安全対策	12.5	5.7	7.3	6.8
			労働安全性－作業環境	12.5	6.3	6.8	6.3
			労働安全性－作業動線計画・機器配置	12.5	6.3	5.6	7.5
			熱回収率向上へ向けた計画－熱回収量(kJ)	12.5	5.8	5.4	4.9
			熱回収率向上へ向けた計画－余剰電力(kWh)・発電効率(%)	12.5	5.8	8.5	8.9
			省資源・省エネルギーへの配慮	12.5	4.9	5.8	6.3
			自然エネルギー利用計画	12.5	8.9	5.4	4.0
			エコセメント化施設へ搬入する焼却残渣量の削減計画	12.5	8.0	3.6	8.9
			見学者への配慮	12.5	7.1	4.5	5.8
			情報公開	12.5	5.4	7.1	6.7
			地域経済への貢献、地域との連携	12.5	4.7	7.8	7.8
2. 施設安定稼働・事業の安定性からの評価	1)安定性の確保	ごみ量変動への対応	15.0	9.4	5.6	10.6	
	2)事業計画	ごみ質変動への対応	15.0	10.0	6.3	7.5	
	3)維持管理計画	安定稼働性－連続稼働実績(90日)	10.0	5.0	4.2	6.7	
	4)運転管理の方法	安定稼働性－安定稼働実績	15.0	6.0	8.3	12.0	
	5)本組合との協調	維持管理性(補修時対応の容易性)	15.0	5.3	7.5	9.0	
	6)その他		プラントの事故対応	15.0	6.8	6.0	8.3
			主要設備の余裕率	10.0	4.0	4.0	4.0
			SPCの収支計画の安定性	15.0	3.8	10.0	10.0
			補修費等(法定点検費、補修費、更新費、消耗品費)の考え方	15.0	9.4	7.5	8.4
			用役費(電気・燃料・水・薬剤)の考え方	15.0	9.4	9.4	6.6
			人件費(管理・運転・機器整備・計量・プラントホーム監視、その他)の考え方	10.0	5.6	6.3	4.4
			応募者の構成と役割分担	10.0	5.0	5.0	5.0
			事業の安定化へ向けた方策	15.0	7.5	10.0	8.8
			施設を30年間使用するに当たり効率的な維持管理計画・体制の説明	15.0	6.9	9.4	7.5
			運転計画の適切性－運転計画	10.0	4.6	5.4	5.8
			運転計画の適切性－労働安全対応	10.0	4.2	5.0	5.4
			セルフモニタリング計画	10.0	4.2	5.0	4.6
			業務の引継方法	10.0	4.2	5.0	4.6
			地域住民への対応	10.0	3.6	5.7	5.0
		その他	10.0	3.9	3.6	4.6	
合 計			500.0	236.6	247.1	279.3	

表4 非価格要素審査の講評

評価分類	評価項目	評価
<p>1. 本事業の実施計画に示す基本方針に対する評価</p>	<p>1) 環境への負荷軽減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公害防止基準等の保証値及び工夫については、自主管理値の考え方、騒音・振動対策などが優れたA社が高い評価を得ました。また、C社はプラットホームの構造及び入口扉（二重扉）が評価されました。 ・排ガス量・排水量の削減については、排ガス量及び排水量が最も少ないA社が高い評価で、最も多いB社が低い評価となりました。 ・温室効果ガス抑制へ向けた方策については、CO₂排出量(t-CO₂/ごみt)が最も少ないC社が高い評価で、最も多いA社が低い評価となりました。 ・建物の緑化対策（屋上緑化・壁面緑化）については、緑化面積が最も大きいC社が高い評価で、最も小さいA社が低い評価となりました。
	<p>2) 地域環境との調和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境との調和については、建て屋高さ25mを越える部分の面積が最も小さいC社が高い評価で、最も大きいA社が低い評価となりました。 ・緑化計画については、緑地率（緑地面積）が最も大きいC社が高い評価で、最も小さいA社が低い評価となりました。
	<p>3) 安全性の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの考え方については、リスクアセスメントの実績からC社が高い評価を得ました。 ・建設工事中の安全対策については、地下工事の考え方からC社が高い評価を得ました。 ・通常時の安全対策については、リスクイベントツリーにおけるレベル1（初期段階）の考え方を重視し、B社及びC社が高い評価を得ました。 ・非常時の安全対策については、想定されるリスクの回避策（計画）からB社が高い評価を得ました。 ・作業環境については、人と物への対応（特に人への配慮）から、B社が高い評価を得ました。 ・作業動線計画・機器配置については、ダイオキシン類管理区分と非管理区分の考え方、各機器の配置計画（エレベータなど）からC社が高い評価を得ました。

	4) エネルギーの有効利用計画	<ul style="list-style-type: none"> ・熱回収量については、2炉稼働（基準ごみ）時のボイラ回収熱量及びその他の有効熱回収量を合計した熱回収量が最も大きいA社が高い評価を得ました。 ・余剰電力については、余剰電力（発電電力量－場内消費電力量）が最も多いC社が高い評価で、最も少ないA社が低い評価を得ました。なお、発電効率については、3社とも大きな差はありませんでした。 ・省資源・省エネルギーへの配慮については、所内消費電力が最も少ないC社が高い評価で、最も多いA社が低い評価となりました。 ・自然エネルギー利用計画については、太陽光発電による発電量が最も大きいA社が高い評価を得ました。
	5) 焼却残渣量の削減計画	<ul style="list-style-type: none"> ・エコセメント化施設へ搬入する焼却残渣（焼却灰＋飛灰）量が最も少ないC社が高い評価で、最も多いB社が低い評価となりました。なお、エコセメント化施設への搬入を考慮して、飛灰量にも注目して評価しました。
	6) 情報公開性	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者への配慮については、エントランス棟計画、ビオトープの見学ルート、見学者ホールの計画からA社が高い評価を得ました。 ・情報公開については、建設工事期間中の工事状況の公開（情報公開）からB社が高い評価を得ました。
	7) 地域貢献性	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への発注内容及び予定発注額からB社とC社が高い評価を得ました。
2. 施設安定稼働・事業の安定性からの評価	1) 安定性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ量変動への対応については、長期的なごみ量変動への対応（社会変化への対応）からC社が高い評価を得ました。 ・ごみ質変動への対応については、定格時における補助燃料使用量の考え方からA社が高い評価を得ました。 ・連続稼働実績については、各社稼働実績からC社が高い評価を得ました。 ・安定稼働実績については、各社稼働実績からC社が高い評価を得ました。 ・維持管理性（補修時の対応容易性）については、補修時における主要設備までの動線計画からC社が高い評価を得ました。 ・プラントの事故対応については、事故及び事

		<p>故対策のケース数（事故対策のノウハウ）からC社が高い評価を得ました。</p> <p>・主要設備の余裕率については、3社とも大きな差はありませんでした。</p>
	2) 事業計画	<p>・SPCの収支計画の安定性については、収支計画上の利益水準や内部留保の考え方からB社及びC社が高い評価で、収支計画上の利益水準が低く設定されており、リスクバッファとしての内部留保金額も少ないA社は低い評価となりました。</p> <p>・補修費等の考え方については、20年目以降の補修費も考慮してA社が高い評価を得ました。</p> <p>・用役費の考え方については、用役費の積算根拠及び合計金額からA社及びB社が高い評価を得ました。</p> <p>・人件費の考え方については、事業計画との整合性、人員配置計画、人件費構成（単価の考え方）からB社が高い評価を得ました。</p> <p>・応募者の構成と役割分担については、3社とも大きな差はありませんでした。</p> <p>・事業の安定化へ向けた方策については、資金的及び技術的サポートの内容が優れているB社が高い評価を得ました。</p>
	3) 維持管理計画	<p>・施設を30年間使用するにあたっての効率的な維持管理計画・体制の説明については、補修計画（詳細提示）の考え方が優れているB社が高い評価を得ました。</p>
	4) 運転管理の方法	<p>・運転計画については、担当技術者の配置及び経験年数の考え方が優れているC社が高い評価を得ました。</p> <p>・労働安全性対策については、労働安全衛生マネジメントシステムへ配慮（取組み）からC社が高い評価を得ました。</p> <p>・セルフモニタリング計画については、自主管理基準の考え方、経営モニタリングの考え方が優れているB社が高い評価を得ました。</p>
	5) 本組合との協調	<p>・業務の引継方法については、施設特有部品の供給と維持管理の考え方などが優れているB社が高い評価を得ました。</p> <p>・地域住民への対応については、周辺住民への対応（内容の具体性）からB社が高い評価を得ました。</p>

	6) その他	・将来の土地利用計画への配慮、ダイオキシン類の自主管理の考え方などからC社が高い評価を得ました。
--	--------	--

(3) 価格審査

価格審査にあたり、入札に参加した応募企業の立会いのもと、入札書の開札を行いました。

その結果、応募企業の入札価格が、予定価格の範囲内であること及び事業計画書と整合していることを確認しました。

落札者決定基準に基づき、入札参加者から提出された入札価格について点数化を行いました。その結果、表5のとおりとなりました。

表5 価格審査結果

入札参加者	配点	入札価格（円） （消費税抜き）	価格審査点
カワサキプラントシステムズ 株式会社 東京本社	500	14,280,000,000	500.0
JFEエンジニアリング 株式会社 東京支社		14,500,000,000	492.3
株式会社タクマ東京支社 ・株式会社タクマテクノス		18,900,000,000	338.5
予定価格		28,586,000,000	

(4) 総合評価得点結果

非価格要素審査点と価格審査点を加算して、表6のとおり総合評価点を算出しました。

表6 総合評価結果

入札参加者	非価格要素審査点 (①)	価格審査点 (②)	総合評価点 (①+②)
カワサキプラントシステムズ 株式会社 東京本社	236.6	500.0	736.6
JFEエンジニアリング 株式会社 東京支社	247.1	492.3	739.4
株式会社タクマ東京支社 ・株式会社タクマテクノス	279.3	338.5	617.8

5. 総評

この度は、3者の応募企業から入札書類の提出を受けました。

選定委員会は、落札者決定基準に基づいて以下のとおり厳正かつ公正に審査を行いました。

非価格要素審査では、全般的な評価項目において良い得点を獲得した「株式会社タクマ東京支社・株式会社タクマテクノス（279.3点）」が1位となり、次いで、2位は「JFEエンジニアリング株式会社東京支社（247.1点）」、3位が「カワサキプラントシステムズ株式会社東京本社（236.6点）」という結果となりました。

平成21年9月30日に実施した価格審査の結果は、1位が「カワサキプラントシステムズ株式会社東京本社（500.0点）」、2位が「JFEエンジニアリング株式会社東京支社（492.3点）」、3位が「株式会社タクマ東京支社・株式会社タクマテクノス（338.5点）」で、1位と2位の得点差は非常に僅差となりました。

そして、総合評価においては、非価格要素審査で全般的に平均以上の評価を得て2位となり、価格審査では僅差の2位となった「JFEエンジニアリング株式会社東京支社」の得点が最高得点となりましたので、落札者として決定しました。

非価格要素審査で最も高い評価を受けたのは、「株式会社タクマ東京支社・株式会社タクマテクノス」でありましたが、他2者に対してのアドバンテージは、価格審査点の差を埋めるには至りませんでした。さらに、価格審査で1位となったのは、「カワサキプラントシステムズ株式会社東京本社」でしたが、落札者である「JFEエンジニアリング株式会社東京支社」に対するアドバンテージはごく僅かであったため、非価格要素審査点の差を埋めるには至りませんでした。

なお、各企業の提案内容には創意工夫が非常に多く含まれており、それぞれの提案が技術面、運営面で本事業の要求水準を上回る内容であったことを申し添えます。

その中で、落札者である「JFEエンジニアリング株式会社東京支社」の提案に対する非価格要素審査において最も高い評価を受けた評価項目は以下に示すとおりです。

- | | |
|---------|--|
| 安全性の確保 | ◆施設の安全性（通常的安全対策・非常時の安全対策）
◆労働安全性（作業環境） |
| 情報公開性 | ◆情報公開 |
| 地域貢献性 | ◆地域経済への貢献、地域との連携 |
| 事業計画 | ◆収支計画の安定性
◆用役費の考え方
◆人件費の考え方
◆事業の安定化へ向けた方策 |
| 維持管理計画 | ◆効率的な維持管理計画・体制 |
| 運転管理の方法 | ◆セルフモニタリング計画 |

本組合との協調 ◆業務の引継方法
◆地域住民への対応

また、落札金額が当初予定していた金額を大きく下回ったことからふじみ衛生組合の財政負担の軽減への貢献が顕著であると判断することができます。

選定委員会としては、J F Eエンジニアリング株式会社東京支社に対して、入札書類及びヒアリング等で示した内容の誠実な履行にとどまらず、ふじみ衛生組合のP F I的事业となる本事業をより適正かつ円滑に実施するため、今回の非価格要素審査において高い評価を得ることができなかった項目（焼却残渣量の削減計画など）についても十分に考慮して、より良い施設の設計・建設及び運営に取り組んでいただくことを希望いたします。

以 上